

# 民主化闘争情報

No. 1021  
2019年5月24日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

JR東労組「緑の風FAX版No.133 (2019.5.22)」(HP公開)によると、先の「民主化闘争情報」で報じた、18春闘時のスト戦術に端を発した組織混乱の中でパージされたと思われるメンバー14名の『「地位保全仮処分命令申立」決定を受けての見解』(以下「14名見解」)に対し、早速JR東労組中央本部が「中央執行委員会」名で、『吉川英一君外13名の責任と再生を謳った「見解」による組織混乱を許さず、新生JR東労組運動を全組合員でつくり出す中央本部見解』(以下「中央本部見解」)を発した。

## どこまでも続く泥沼的な罵り合い

### 「14名」vs「中央本部」の行方は…定期大会も含めてどんな結末を迎えるのか？

～ 反逆勢力の切り捨て？それとも単なるカモフラージュ？！～

「中央本部見解」では、「春闘総括レポート」を引き合いに出し、14名を批判している。「これ以上の組織混乱を防ぐため、中央本部見解を出すことに至りました」と前置きしているが、「春闘総括レポート」が出回ったとされる昨年末には、このレポートの内容等に過敏に触れることなく、沈黙を守っていたようであった。しかし、JR東労組の内部紛争は、相当激化していたのではないだろうか。

この「春闘総括レポート」とは、今回の「14名見解」と同じ者たちが発信したもので、『「格差ベア」を巡る「紛争状態」の責任を東労組に押しつけ組織破壊攻撃を仕掛けた会社経営陣を許さず、19春闘において3年連続「格差のないベア」を実現させ、12地本の団結と、組織の再生に向け決起しよう！』と題した、全53ページにもわたる資料のことだと推察される。「中央本部見解」では、膨大な53ページの中から『今や会社の「操り人形」』、『「大敗北」(略)この総括は組合員に対する「背信行為」』、『新たにたたかう「新体制」を確立』などと引用し、「己が引き起こした18春闘という反省に立っていません」と猛然と反論しているということは、相当腹に据えかねていたのであろうか。定期大会を目前に、「言い訳、誹謗・中傷合戦」をするのは勝手だが、もはや一般組合員にとっては、複雑すぎてどうでもいいことなのではないか。本当にわかりにくい…。

「中央本部見解」の最後で、『14名の言う「再生」の道は共に歩めないことを宣言します』とする現中央執行委員会の意味するものは何なのか。大会で14名や3地本を切って捨てるのだろうか…。いずれにせよ、18春闘時のスト戦術に端を発したこの組織混乱の溝はさらに広がり、JR東労組の崩壊が更に進むことは明らかだろう。

## 一向に問題視されない某地本の役員

### 革マル派の戦術ともいえる長期的視野にたった任務を遂行しているのではないか？

他方、JR東労組某地本の役員で、JR東労組中央本部が「組織破壊集団」とレッテルを貼った労働組合と仲良く手を携えて行動している者を、中央本部は野放しにしているようだ。故・松崎明氏のボディガードをしていたとされる方だが、片や同地本の大半の組合員を集団脱退させておきながら、自らは地本役員として残留し、新たに結成された組合と行動を共にしているとの情報を耳にする。新たに結成された組合の内実は、某地本そのものといえるが、中央本部はだからこそ「組織破壊集団」と規定し批判している。その集団とつるんでいる某地本役員の位置付けは何なのか。見かけ上組織を割っておきながら、水面下では通じているのであれば、革マル派の性質にも符合する。なんと巧妙で恐ろしいことか。

**今こそ！真に民主的な労働運動を進めるJR連合・JREユニオン結集しよう！**